

INWEPF から第5回世界水フォーラムへのメッセージ



生命と環境に調和し、すべての利害関係者の積極的な関与による、協同的な水田システムは、最も持続可能で公正な水管理システムである

1. 近年、人口増大、経済発展及び気象変動に伴う干ばつ・洪水の多発のため、水資源需要の逼迫を認識することが避けられなくなりつつある。特に昨年の農産物価格の急上昇は、世界中で食料供給の不安定化を引き起こし、社会不安定化を呼び起こしている。この原因のひとつは世界各地での干ばつである。このように、水問題および食料安全保障は地域における持続的な経済・社会発展の鍵であり、各国が自らの天然資源（水と土）を最適に活用して農業生産を強化していかなければならない。

2. 我々、国際水田・水環境ネットワーク（INWEPF）は主張する。世界人口の半数以上が居住しているアジアのモンスーン地域で、米は最重要な穀物であり、その生産基盤である水田システムは、地域の気候、風土に適合し、人口扶養力が高く、地域資源を持続させる多様な便益を供給するシステムである。

また、水田システムの基礎である水と土は自然そのものではなく、循環の仕組みを増進しつつその恵みを受け入れやすいように人工的に組み込まれた基盤として形成されている。この水と土を巧みに機能させ、維持、運営するために「知」が創出され発展してきた。この「知」が地球規模の水問題に取り組み、解決するための持続的な水管理システムの鍵である。

3. 我々はトルコで開催される第5回世界水フォーラムに出席する公私の代表者に下記の INWEPF の声明と勧告について考慮することを要求する。

- （1）水田システムは、流域での上流から下流への水の反復的な利用を可能とし、水資源の利用可能性が変動する地域の水資源を効率的に利用できるシステムである。また、水田システムは、文化と自然環境を持続的な方法で維持する潜在性を持った人工的な湿地として機能する。
- （2）この水田システムのもつ多面的機能の価値、効用及び「循環の原理」を基本とする伝統的な「水土の知」は、認識され、評価され、水資源開発と管理の目的、計画、戦略に反映されるべきである。
- （3）持続的な水管理システムのひとつとして「水土の知」が育んだ参加型水管理が導入されるべきである。また、参加型水管理は、水を扱うすべての人々からのボトムアップによるディスカッションの積み重ねが重要な要素であり、農民の参加が不可欠である。
- （4）政府は、食料安全保障を達成し、貧困を削減し、生態系を保全するために、持続可能な方法で利用可能な水の公平、効率的な分配の確保を満たした上で、水田システムへの適切な投資、近代化、管理に対する必要な援助（例えば政策、法制度、資金調達、能力開発、教育）を提供すべきである。

- (5) 気候変動が引き起こす洪水や干ばつなどの出来事に対応するため、将来の気候シナリオを予測し、それに伴う問題を明らかにし、施設整備及び水管理を行う必要がある。